



Closure report 2021

終了報告書

インドネシア共和国

トウナ地域開発プログラム

IDN-197362 (2009 年度～ 2021 年度)



ありがとうございました

皆さまのご支援により、人々が変わり、地域が変わりました

体罰をせず、子どもの権利を尊重
した子育てができている保護者

2017年

2020年



0.3%



68.6%

子どもたちの教育費を
支払える世帯

2013年

2018年



38%



71%

新型コロナウイルス感染症の対策として
設置した手洗い場で石けんを使って
手洗いをしている地域住民



延べ18,679人

Child Protection



子どもの保護

子どもたちが安心して暮らせる地域に変化しています

支援当初、多くの地域住民が子どもの保護や権利について知りませんでした。また、多くの世帯が貧困で日々の生活に精一杯だったため、子どもたちに関心を持つ余裕すらありませんでした。そのため、半数以上の子どもが出生証明書を持っておらず、行政サービスを受けられませんでした。育児の知識も不足していたため、99.7%の保護者がしつづけるために体罰を行っていました。支援を通じ、地域住民に子どもの保護や権利に関する研修を行いました。また保護者は、子どもの権利を尊重した子育てや出生証明書の重要性も学びました。現在では地域住民が主体となって活動し、虐待や早婚など子どもの権利や保護に関わる問題が発生した際に対応できるようになりました。子どもたちも、子どもクラブや子どもフォーラムを通じ、ライフ・スキル*やリーダーシップを身につけ、地域で子どもたちが抱えている課題について声を上げられるようになっています。以前は、年間のコミュニティ開発計画の策定などに子どもの声が反映されることはありませんでしたが、2020年には19人の子どもたちがコミュニティ会議に参加しています。これからは、子どもたちも地域の一員として、子どもに優しい地域づくりを担っていきます。

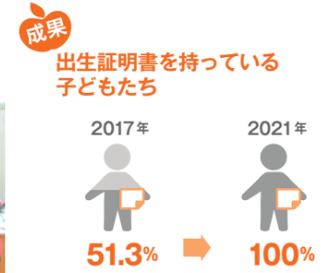
* 問題解決、対人関係、意思決定、計画的など、生きていく上で必要な知識・技術



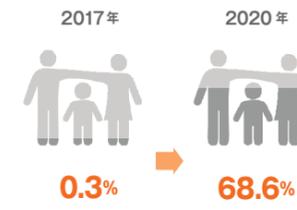
支援後 宗教リーダー(上段、左端)が、イスラム教の教えに沿った愛のある子育てについて母親たちに教えています



支援後 子どもクラブで楽しみながら子どもの権利や保護について学んでいる子どもたち



体罰をせず、子どもの権利を尊重した子育てができている保護者



マネージャーよりごあいさつ



トウナ地域開発プログラム マネージャー
ワフュー・ジョコ

親愛なるスポンサーの皆さま、トウナ地域のために長きにわたるご支援をいただき、ありがとうございました。2009年に始まったトウナ地域開発プログラムは、子どもたちとその家族の生活の質向上を目標に活動してきました。皆さまのご支援により、子どもたちは公共サービスを受けられ、家族は有機農業や貯蓄を通じて家族の必要を満たせるようになりました。皆さまのおかげで、トウナ地域は子どもたちに優しい地域へと成長することができました。心から感謝いたします。これからは、今も支援を待っているほかの地域の子どものために、ご支援を継続いただければ幸いです。

Economic Development



経済開発

有機栽培と貯蓄により、家族のニーズに応えられます

トウナ地域は国内でも貧困率が高く、低所得者層が多い地域でした。多くの住民の収入源である農業の生産性は低く、収穫物の売買に関する知識も不十分だったため、収穫物は中間業者に低価格で買い取られていました。貯蓄の習慣もなかったため、高利貸しに依存し、子どもの基本的なニーズ(食、医療、教育)を満たせる世帯は36%のみで、特に教育は後回しにされていました。また、河川流域に位置するトウナ地域は、洪水や土砂災害の危険に常にさらされていますが、多くの世帯が災害に直面した際のリスク低減や対処をしていませんでした。支援を通じ、有機栽培やマーケティングの研修を行い、多様な野菜を育て、適正な値段で売れるようになりました。国の有機認証機関によって認証を受けた有機栽培グループもあります。また、財政管理の研修や貯蓄グループの形成により、グループの現在の平均貯蓄額は約4万3,000米ドルになりました。新型コロナウイルス感染症拡大による市場閉鎖などで一時期収入が得られなくなった際にも、貯蓄から教育費や生活費を捻出したり、困っている世帯に貸付をし助け合ったりできています。災害から農作物や家族を守るため、災害を想定した訓練や防災計画に関する研修も行い、有事に対応できるよう、災害対策委員会が設立されました。今では収入を維持し、子どもたちのニーズに応えられる世帯が増え、子どもたちは安心して生活し、勉強を続けられるようになりました。



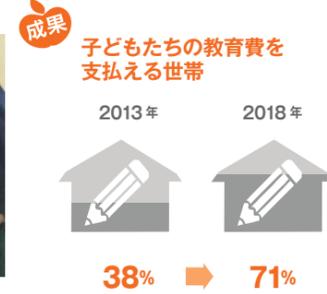
支援前 干ばつの影響を受けた農作物



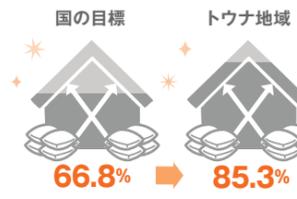
支援後 子どもたちも貯蓄グループに参加し、貯蓄について学んでいます



支援後 有機栽培のコンテストで優勝した地域住民



災害リスクの低減や対策をしている世帯



地域代表者からのごあいさつ



アンパナテテ副都長
ムハンマド・イクサン・ムルサリ氏

これまでご支援いただき、心から感謝いたします。皆さまのご支援により、地域住民は農業技術や貯蓄について学ぶことができました。貯蓄による生活の変化は、地域住民の意識改革にもつながりました。そして、私たちは子どもにとって優しい地域として生まれ変わることができました。まだ助けを必要としている世帯もありますが、地方自治体の私たちと地域住民が協力し合い、ワールド・ビジョンが始めてくれた農業支援や貯蓄、子どもの保護プロジェクトを継続し、支えています。これからも地域住民全員の自立と、ますます子どもたちに優しい地域になることを目指します。長きに渡り、トウナ地域を支えてくださり本当にありがとうございました。

Health



保健衛生

COVID-19 対策により、地域住民が守られています

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的大流行により、トウナ地域も市場へのアクセス制限や学校の休校などにより大きな影響を受けました。約83%の世帯で収入が減少し、ストレスから子どもへの暴力などを行ってしまった保護者が31.4%もいました。また、多くの地域住民がCOVID-19の予防方法を知らず、とても弱い立場に置かれていました。支援を通じ、地域住民への感染予防に関する啓発活動、医療従事者や地域住民への衛生・防護用品650セットの提供、654人の子どもたちへの石けんの配布、公共施設など20カ所への手洗い場の設置などを行うことができました。手洗い場の利用者は、4,824人の子どもたちとその家族13,855人にのぼり、地域住民の多くが石けんを使って手を洗い、感染予防をすることができています。また、子どもの保護グループのリーダー6人には、コロナ禍の子育てやストレスケアに関する研修を行い、子どもたちとその家族をサポートする環境を整えることができました。10のCOVID-19対策チームが結成され、これからはこのチームを中心に地域内の感染予防対策を行っていきます。



支援後 保健施設に衛生・防護用品が支援された様子



支援後 子育てやストレスケアについて学ぶ母親たち



支援後 子どもたちにCOVID-19感染予防に関する研修を行いました



設置した手洗い場で石けんを使って手洗いしている地域住民



皆さまとともに歩んだ 13 年間の支援と成果

準備期
2009 年度
▼
2011 年度

- ◎ 事業対象地域での状況やニーズ調査、プロジェクト実施計画の立案
- ◎ 地方自治体や地域住民との相互理解・関係構築

ニーズ調査後、課題整理をしている様子 (左) ▶
子どもたちも地域の課題について話し合いを実施 (右) ▶



第1期
2012 年度
▼
2016 年度

- ◎ 生産可能な農産物の特定や市場調査、市場とのネットワークの強化
- ◎ 農家向けに有機栽培、マーケティング、防災、家計管理に関する知識やスキル向上のための研修
- ◎ 生計向上と子どもの健全な成長の関係について保護者への研修
- ◎ 貯蓄グループの育成・研修
- ◎ 子どもクラブを通じたリーダーシップ研修



農家グループと地方自治体の関係者が、有機栽培のトモロコシを収穫している様子



子どもクラブで話し合った地域の課題を政府職員の前で発表している子どもたち

第2期
2017 年度

- ◎ 子どもへの暴力撤廃キャンペーンの一環として、子どもの日のお祝いの会を実施
- ◎ 子どもの保護や権利に関する研修
- ◎ 野菜の有機農業の展開と、貯蓄グループの拡大



貯蓄グループの会合の様子



子どもクラブの活動を通じ、自信や積極性を身につけた子どもたち

第3期
2018 年度
▼
2021 年度

- ◎ 貯蓄グループの組織化と持続化計画の策定
- ◎ 子どもたち対象のライフ・スキルやリーダーシップに関する研修
- ◎ 子どもクラブ、フォーラムを通じた子どもの権利や保護に関する啓発活動
- ◎ 支援終了後も継続的に活動できるよう計画の策定と、スルテン銀行などの民間セクターとの関係構築
- ◎ 保護者や地域のリーダーたちへの、地域の宗教であるイスラム教の教えにそった、愛のある子育てについての研修
- ◎ 農家グループ対象の、地元市場での有機野菜販売に関する研修
- ◎ 新型コロナウイルス感染症予防のための活動



貯蓄グループでは、金庫で管理していた資金を銀行に預けるようになりました



有機野菜の栽培とマーケティングについて学んだ地域住民

支援を受けたチャイルドのストーリー

貯蓄で家族や地域を支えている
母を、誇りに思います！

ラトナちゃん
(16 歳)

トウナ地域で育った 16 歳のラトナちゃん (右) が暮らすコミュニティには、小学校が 1 校しかなく、中等教育以上は 15km 離れたところまで通わなければいけません。しかし、多くの家庭で貯蓄の習慣がなく、収入も十分ではなかったため、ほとんどの子どもたちが進学を諦めていました。

ご支援を通じて行われた地域住民への貯蓄や教育の重要性に関する研修をきっかけに、状況は変わり始めました。

「母は以前、食器棚にわずかなお金をしまうだけで、計画的に貯蓄をする習慣はありませんでした。ご支援により、貯蓄と教育の重要性を学んだ母は、積極的に貯蓄をし、家の改修や教育費にお金を回せるようになりました。今では子どもたちの教育のために貯蓄・貸付をするグループの管理と、子ども対象の貯蓄グループの先生をしています。また、家の前で食料品を売る小売店も始め、家計を支えています。おかげで、兄は大学を卒業することができ、両親がやっている農業では必要な機具などを買えるようになりました」

「私は今、毎日父にバイクで送ってもらい、高校に通うことができます。今ではコミュニティから、17 人も中学や高校に進学しています。ご支援くださったスポンサーの皆さまに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました！」



家前で始めた小売店の前。お母さんとラトナちゃん